

(資料1)

四国森林管理局管内の木材価格等の推移  
(最近の動向)

令和5年3月15日  
四国森林管理局

## 目 次

I	管内における主な原木市場・共販所の状況	
1	丸太価格の推移	1
2	丸太取扱量の推移	5
II	管内における製材等の状況	
1	製材用素材の入荷量及び在庫量の推移	7
2	製材品の出荷量及び在庫量の推移	8
3	製材品価格の推移	9
III	全国の丸太価格の動向	10
IV	住宅着工戸数	
1	四国における木造住宅着工戸数の推移	12
2	全国の住宅着工戸数の推移	13

# 管内における主な原木市場・共販所の状況

## 1-(1) 丸太価格の推移 (スギ、径14cm~16cm 長3m材・4m材)

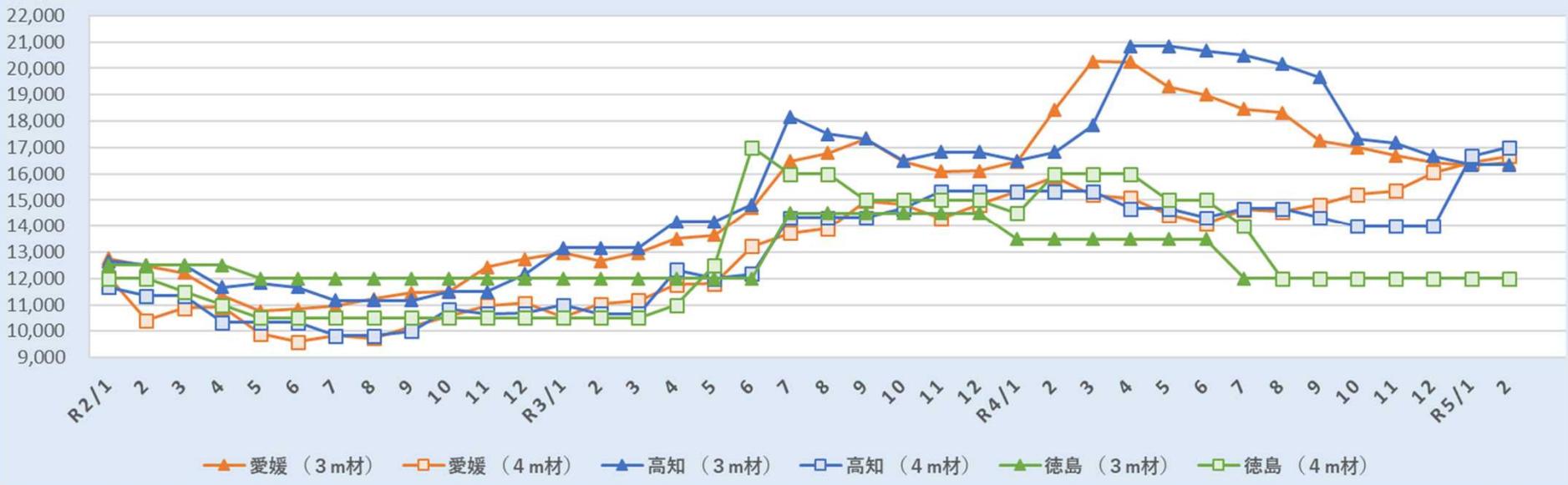
- 令和4年は、愛媛県、高知県では、年明けから4月にかけて3m材の引き合いが再び良くなり高騰、その後は軟調相場に移行したものの高い水準が続いた。
- 令和5年も2月までは高い水準が続く。
- 徳島県は、6月頃までは堅調な相場で維持したが、7月頃からは弱気配となり、令和4年8月には令和2年の水準まで下落し、以後は低い水準が続く。
- 令和5年2月のスギ丸太価格は、前年同月比75%から111%で推移。

○2月のスギ丸太価格

(円/m<sup>3</sup>)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	12,000	13,500	89%
	4m材	12,000	16,000	75%
愛媛県	3m材	16,415	18,443	89%
	4m材	16,663	15,900	105%
高知県	3m材	16,333	16,833	97%
	4m材	17,000	15,333	111%

(円/m<sup>3</sup>)



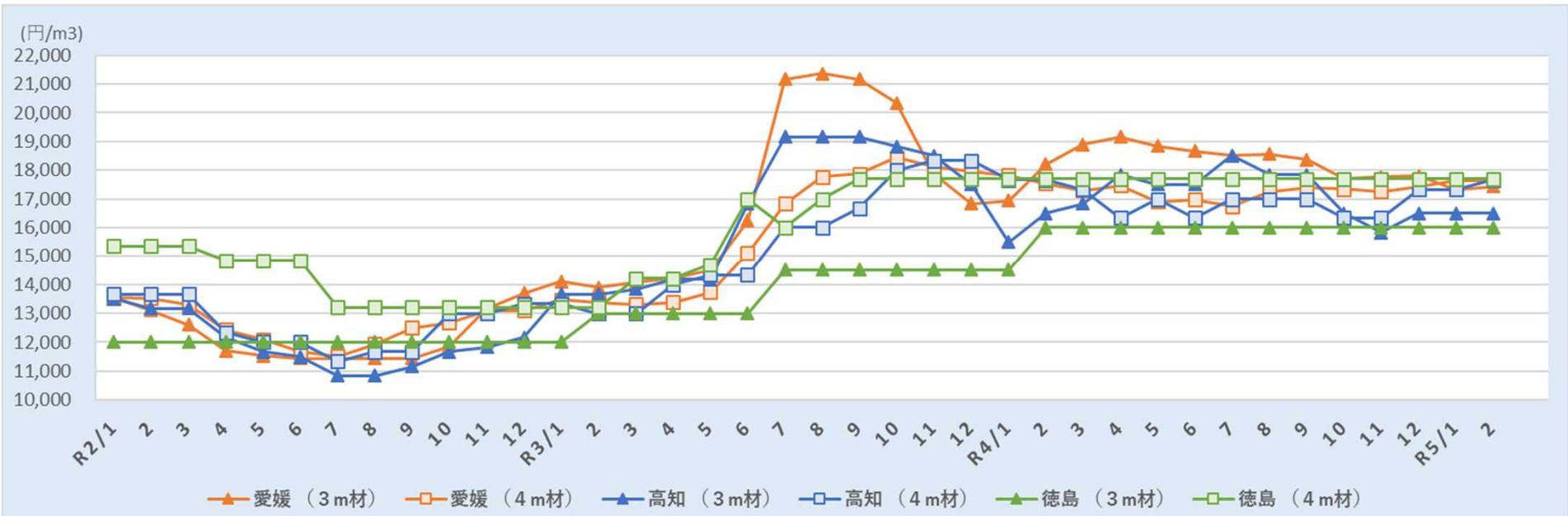
## 1-(2)丸太価格の推移 (スギ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和4年は、小幅な上げ下げがあるものの概ね横這いで推移し、年間を通して高い水準が続いた。
- 令和5年も引き続き高い水準が続く。
- 令和5年2月のスギ丸太価格は、前年同月比96%から101%で推移。

○2月のスギ丸太価格

(円/m3)

県	長級	当月	前年同月	前年同月比
徳島県	3m材	16,000	16,000	100%
	4m材	17,700	17,700	100%
愛媛県	3m材	17,433	18,203	96%
	4m材	17,637	17,530	101%
高知県	3m材	16,500	16,500	100%
	4m材	17,667	17,667	100%

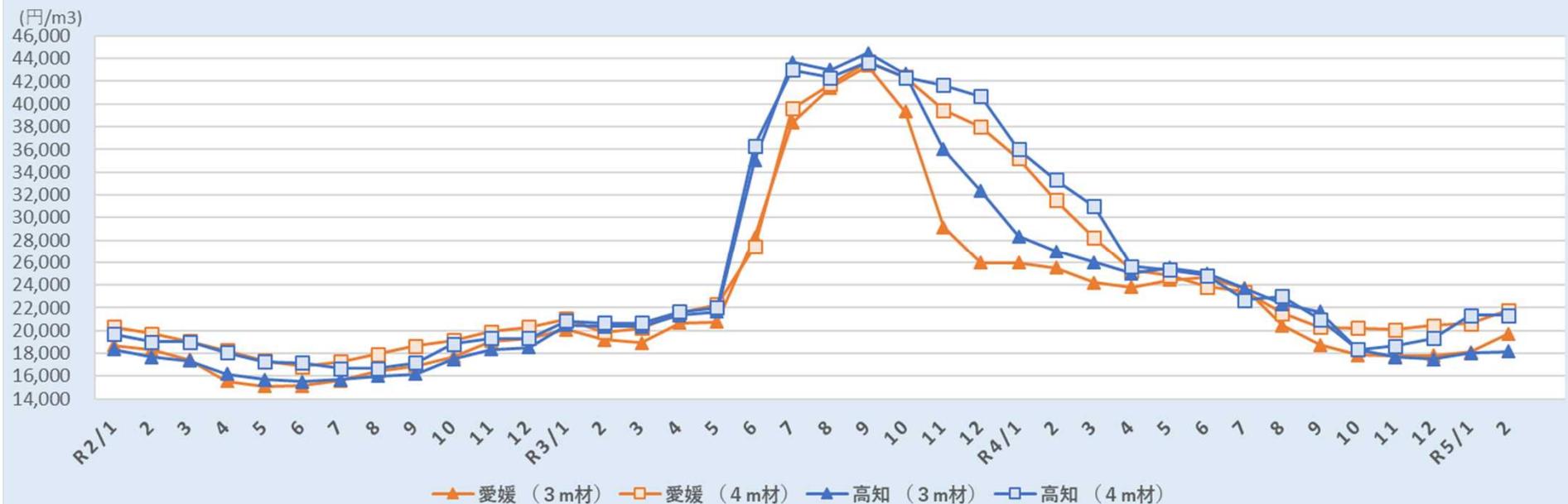


## 1-(3)丸太価格の推移（ヒノキ、径14cm~16cm 長3m材・4m材）

- 令和4年は、年明け直後から4m材の下落も顕著となり、4月には3m材との価格差はなくなった。その後も3・4m材ともに下落傾向で推移し、10月には令和2年同時期の水準まで下落。
- 令和5年は1月に入り、好調な引き合いもみられるようになり、僅かに上昇するなど持ち直しつつある。
- 令和5年2月のヒノキ丸太価格は、対前年比64%から77%で推移。

○2月のヒノキ丸太価格 (円/m3)

県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
愛媛県	3m材	19,722	25,500	77%
	4m材	21,803	31,533	69%
高知県	3m材	18,167	27,000	67%
	4m材	21,333	33,333	64%

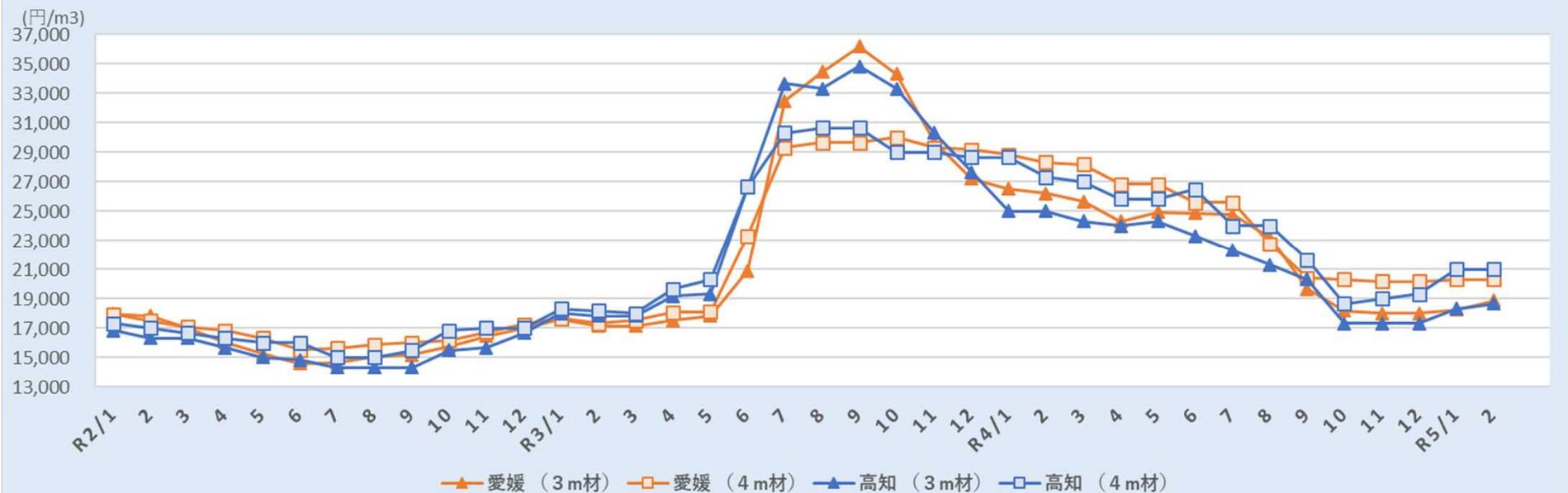


## 1-(4)丸太価格の推移 (ヒノキ、径18cm~22cm 長3m材・4m材)

- 令和4年は、年明け後も下落傾向が続き、7月からは一段と下げ幅が拡大したが、10月に入り下げ止まりがみられ4m材を中心に価格の落ち着きがみられたものの価格は低い水準となった。
- 令和5年は1月に入り、特に4m材の引き合いがよくなっており、僅かながら上昇するなど持ち直しつつある。
- 令和5年2月のヒノキ丸太価格は、対前年比72%から77%で推移。

○2月のヒノキ丸太価格 (円/m<sup>3</sup>)

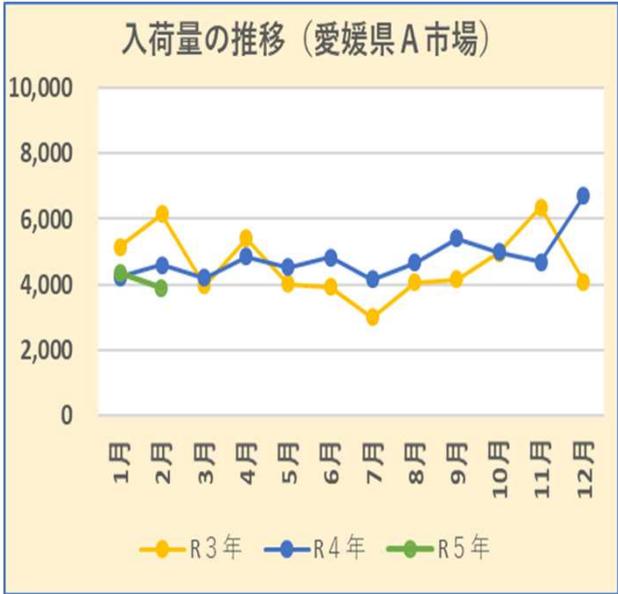
県	長級	当月	前年 同月	前年 同月比
愛媛県	3m材	18,867	26,233	72%
	4m材	20,333	28,333	72%
高知県	3m材	18,667	25,000	75%
	4m材	21,000	27,333	77%



# Ⅰ 管内における主な原木市場・共販所の状況

## 2-(1) 丸太取扱量の推移（愛媛県）

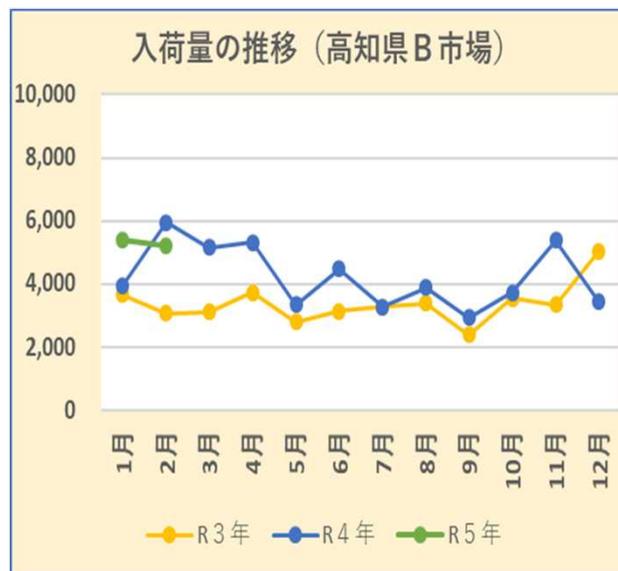
- 入荷状況は、積雪の影響があったものの概ね順調。久万地区では、2月は積雪の影響もなくなり大幅に増加。
- 買方の動向は、引き合いがあり好調。
- 材の引き取り状況は、スギ・ヒノキともに良好。
- 先行きは、エネルギー高・物価高騰の中、不透明。



四国森林管理局調べ

## 2-(2) 丸太取扱量の推移（高知県）

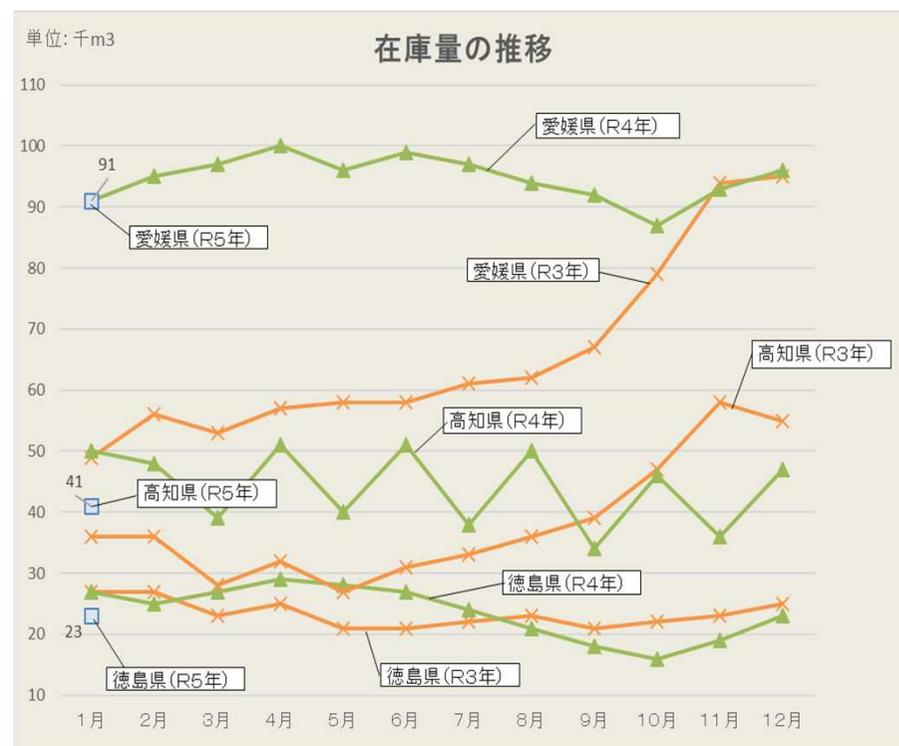
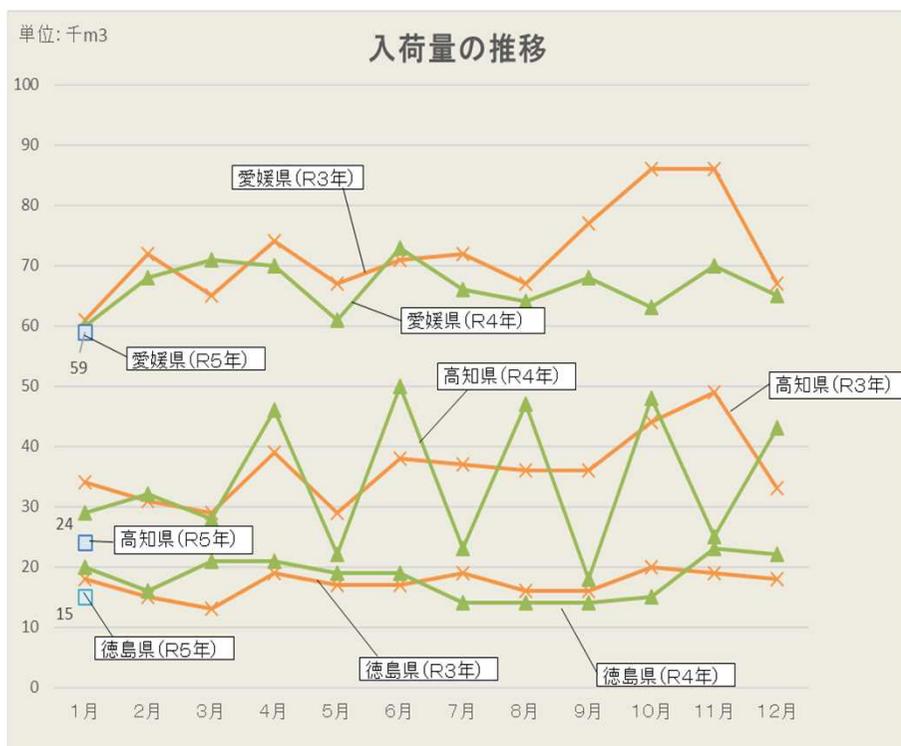
- 入荷は、年末から1月の寒波の影響で1月出材予定分が2月に遅れた市場があるものの、概ね横這いで推移。
- 樹種割合はヒノキの出材が多い傾向。
- 材の引き取りは順調に推移。
- 先行き3月の出材は減少するのではと予想。



## II 管内における製材等の状況

### 1. 県別の製材用素材の入荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和4年）

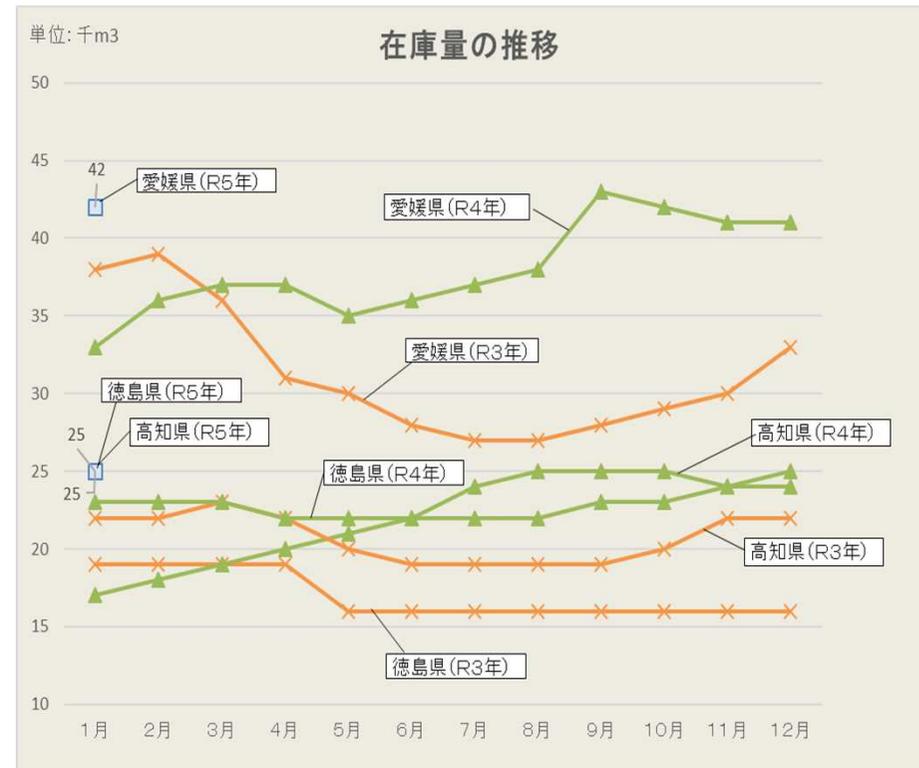
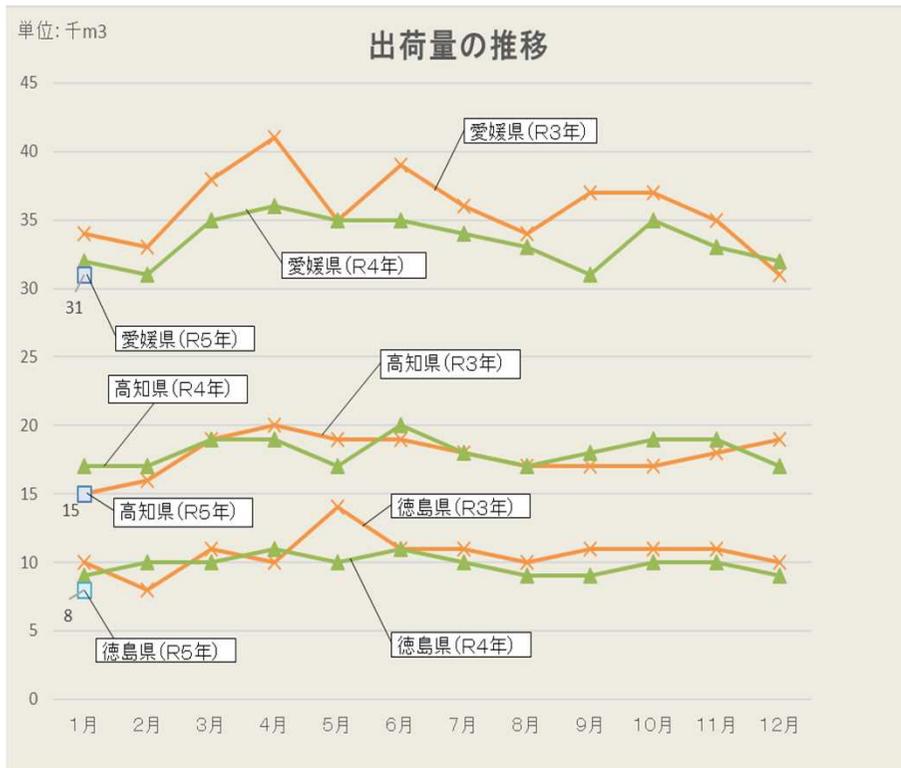
- 製材用素材の入荷量は、令和4年は4月頃から高知県で大きな変動がみられるものの概ね例年並みで推移した。
- 在庫量は、令和4年は5月頃から減少傾向となったものの年末には若干増加した。
- 特に愛媛県では前年同期より高い水準が続く。



資料: 農林水産省「製材統計」

## 2. 県別の製材品の出荷量及び在庫量の推移（令和2年～令和4年）

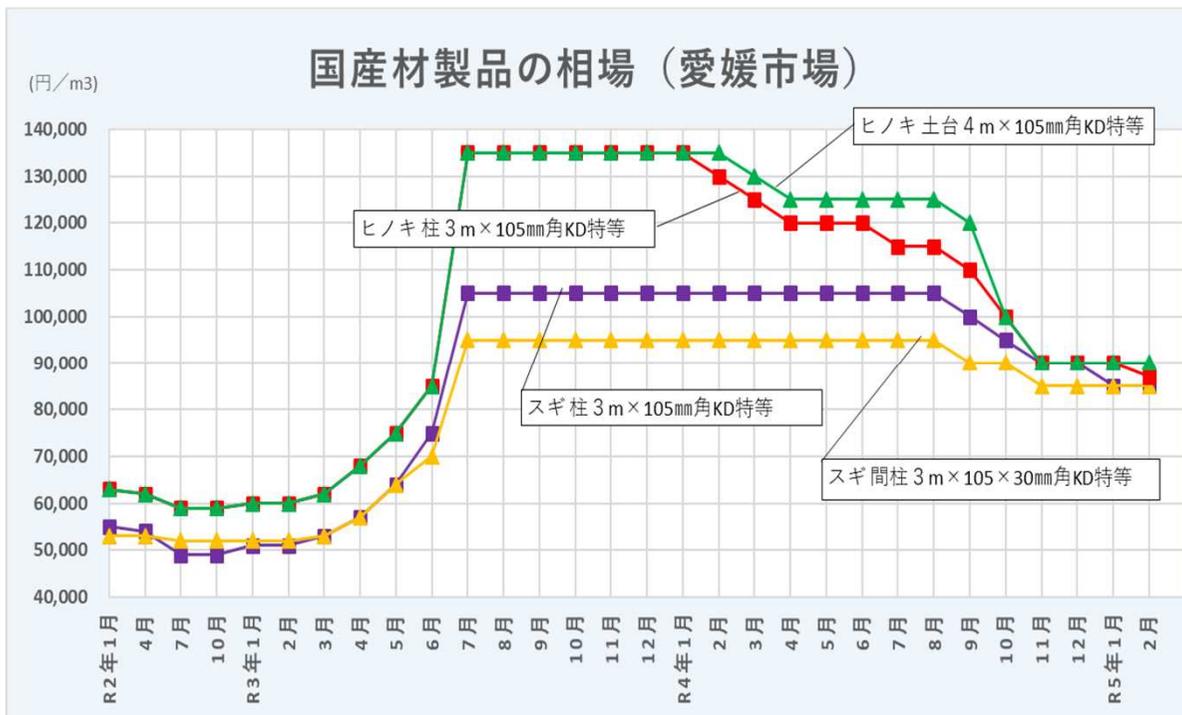
- 製材品の出荷量は、令和4年秋頃に増加傾向が見られたが、年末からは再び減少傾向が見られ、各県ともに去年同期より低い水準となった。
- 在庫量は、令和4年も増加傾向が続く中、10月以降はやや減少が見られたが、依然として高止まり状態が続いており、各県ともに前年同期より高い水準が続く。



資料: 農林水産省「製材統計」

### 3. 製材品価格の推移

- 国産材への代替需要の高まりも令和4年に入り、ヒノキ製品は春先から、スギ製品は9月頃から相場下落が見られる。また、スギとヒノキの価格差も殆どなくなっている。
- 最近では、構造材の中でも土台角には他の樹種との比較で割安感があり、引き合いが見られるが、柱や間柱についてはWウッドや集成材との競合で売りづらい様子。



国産材製品の相場（愛媛県）令和5年2月

円/m<sup>3</sup>

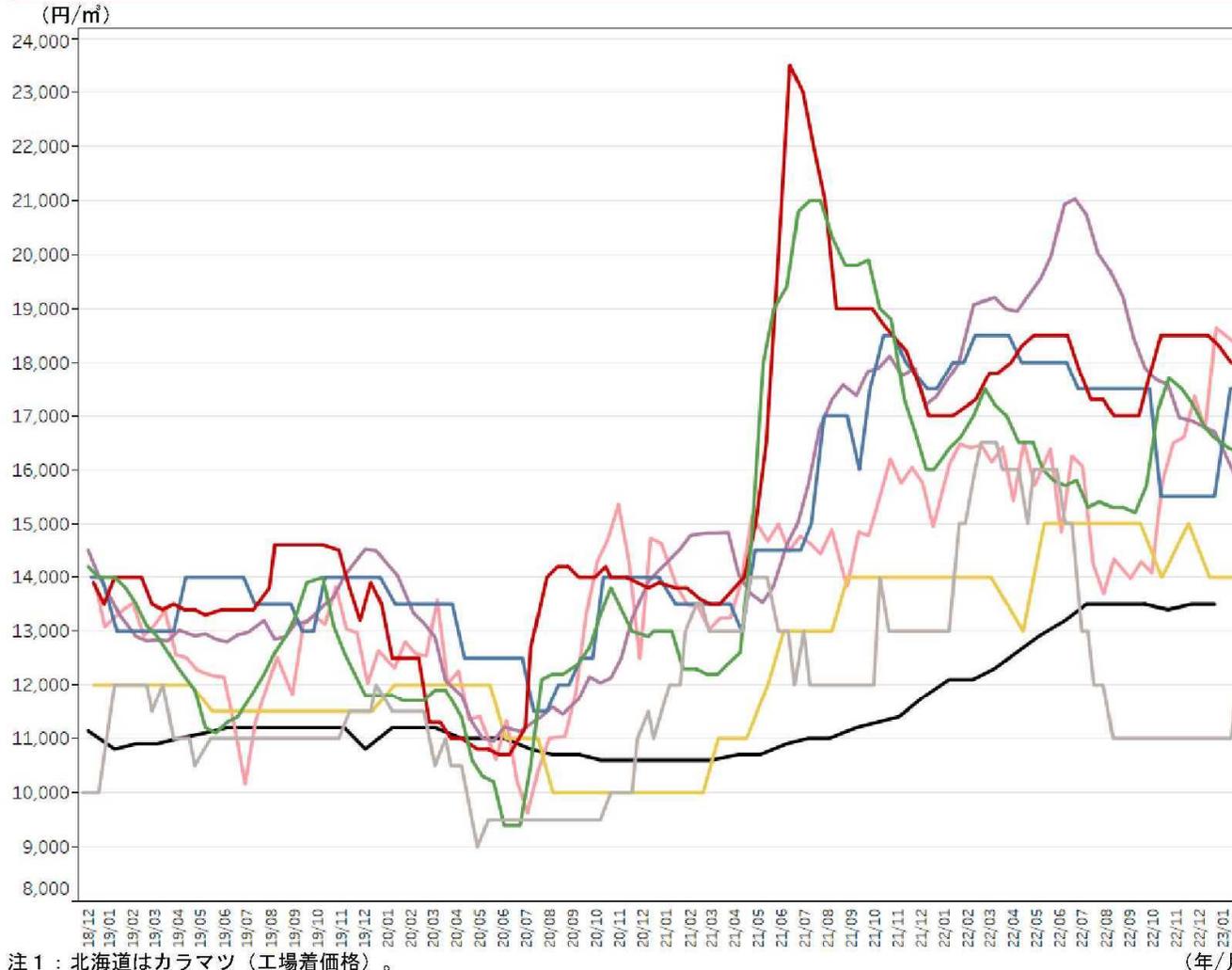
	品目	当月	前年 同月	前年 同月比
スギ	柱 3 m×105mm角KD特等	85,000	105,000	81%
スギ	柱 3 m×120mm角KD特等	-	95,000	
スギ	間柱 3 m×105×30mm角KD特等	85,000	95,000	89%
ヒノキ	柱 3 m×105mm角KD特等	87,000	130,000	67%
ヒノキ	柱 3 m×120mm角KD特等	87,000	125,000	70%
ヒノキ	土台 4 m×105mm角KD特等	90,000	135,000	67%
ヒノキ	土台 4 m×120mm角KD特等	90,000	130,000	69%

資料：日刊木材新聞

# Ⅲ 全国の丸太価格の動向

## ア スギ(全国) 径24cm程度、長3.65~4.0m (2018年12月~)

- 2021年4月以降、いわゆるウッドショックにより価格が大きく上昇し、その後一部の地域で下落したが、全般的には、**2021年3月以前と比較すると高い水準で推移。**
- 直近のスギ原木価格は、**12,000円~18,330円/m<sup>3</sup>**となっている。



注1：北海道はカラマツ（工場着価格）。

注2：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。

資料：林野庁木材産業課調べ

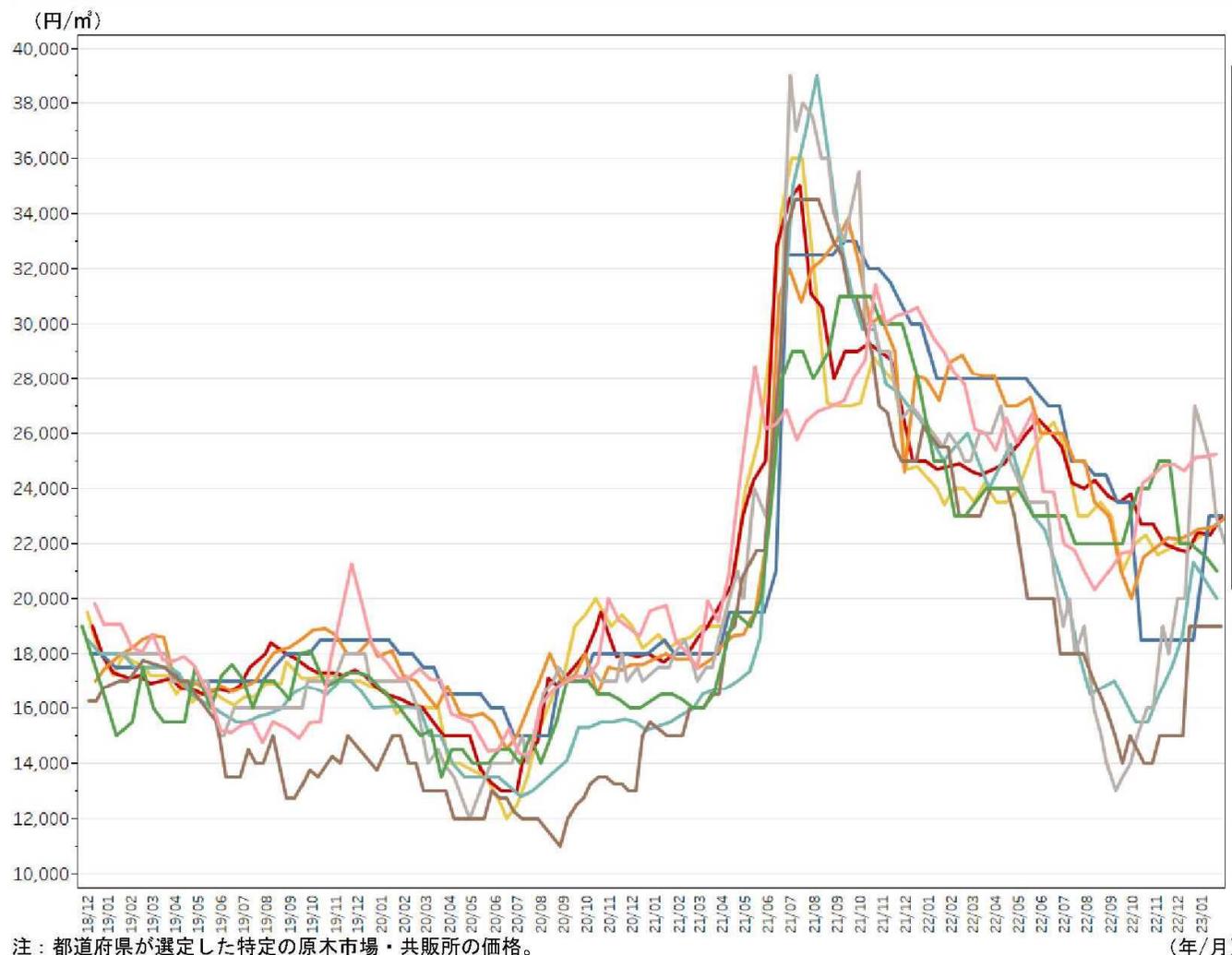
(単位：円/m<sup>3</sup>)

都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
北海道	13,500	11,800	114%
秋田県	15,840	17,980	88%
栃木県	18,330	16,470	111%
長野県	14,000	14,000	100%
岡山県	12,000	15,000	80%
高知県	17,500	18,000	97%
熊本県	18,000	17,000	106%
宮崎県	16,300	16,600	98%

※北海道については12月、秋田県、栃木県、長野県、岡山県、高知県、熊本県及び宮崎県については1月の値を使用。

## イ ヒノキ（全国） 径24cm程度、長3.65～4.0m（2018年12月～）

- ・ ヒノキにおいてもスギと同様に、2021年4月以降、価格が大きく上昇。その後下落傾向に転じているが、**2021年3月以前と比較すると全般的に高い水準で推移。**
- ・ 直近のヒノキ原木価格は、**19,000円～25,230円/m<sup>3</sup>**となっている。



注：都道府県が選定した特定の原木市場・共販所の価格。  
資料：林野庁木材産業課調べ

(単位：円/m<sup>3</sup>)

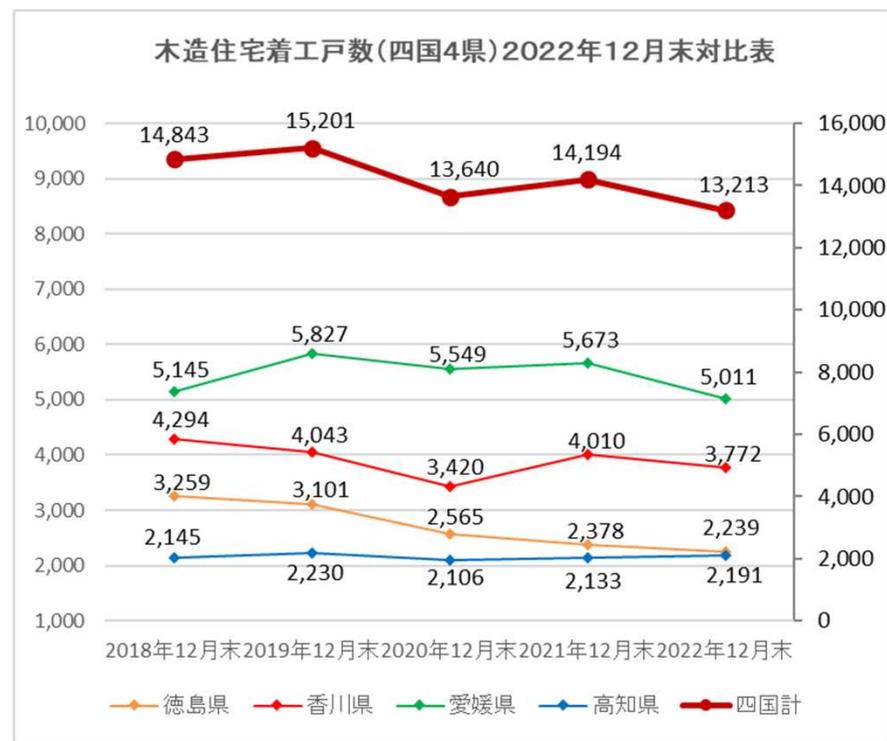
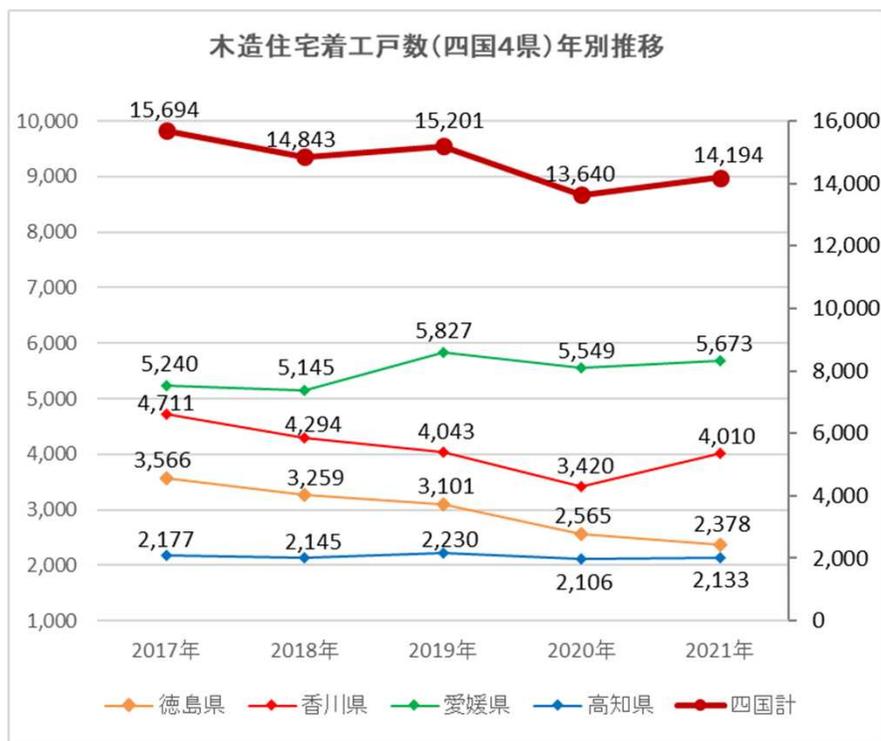
都道府県	2022年直近*	前年同期	前年同期比
栃木県	25,230	29,000	87%
静岡県	21,000	25,000	84%
兵庫県	19,000	25,500	75%
岡山県	22,000	26,000	85%
広島県	20,000	25,000	80%
愛媛県	22,900	28,600	80%
高知県	23,000	28,000	82%
熊本県	23,000	24,700	93%
大分県	22,500	24,000	94%

※各県1月の値を使用。

# IV 住宅着工戸数

## 1 四国における木造住宅着工戸数の推移

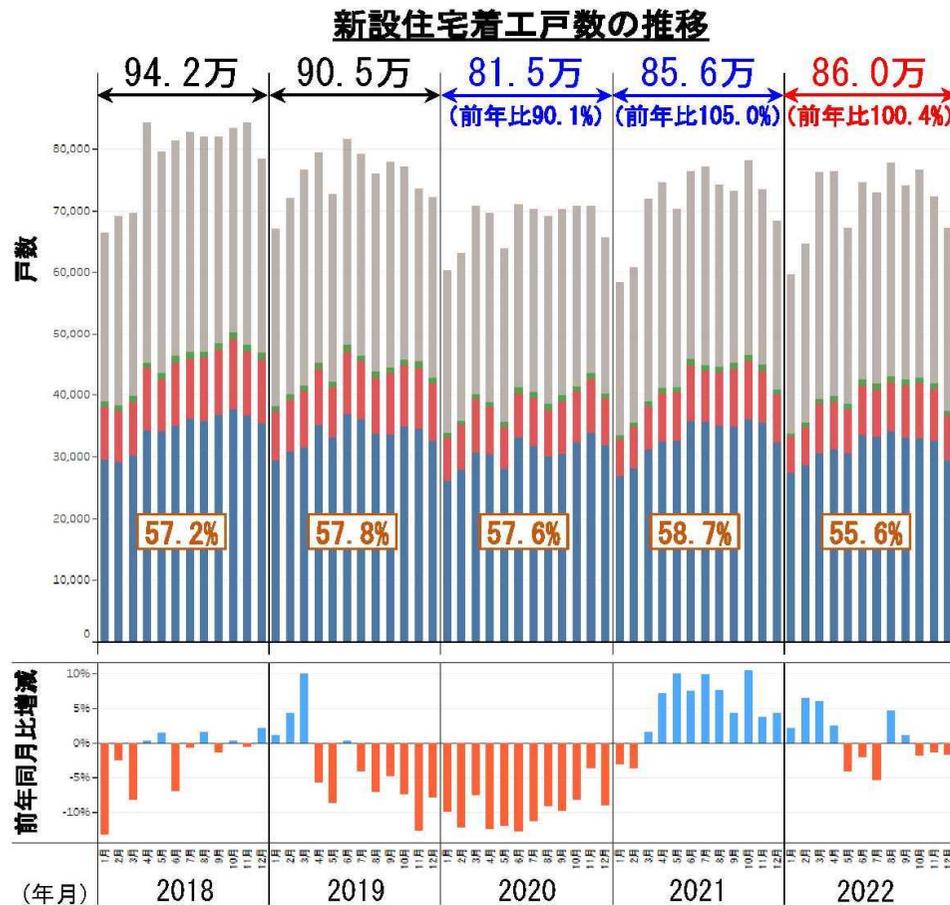
- 四国における2021年の木造住宅着工戸数は14,194戸、2020年（13,640戸）からは増加したが、2019年には届かなかった。
- 2022年の木造住宅着工戸数は13,213戸（前年比93.1%）となり、過去10年間で最も低い着工戸数となった。
- 県別では、徳島県2,239（前年比94.2%）、香川県3,772（同94.1%）、愛媛県5,011（同88.3%）、高知県2,191（同102.7%）で、高知県を除き前年を下回った。



資料:国土交通省「住宅着工統計」

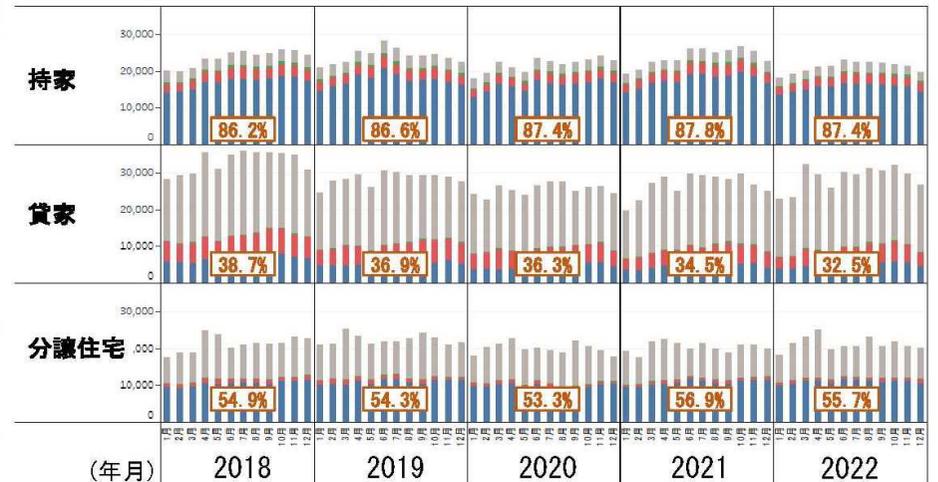
## 2 全国の住宅着工戸数の推移（2018年1月～2022年12月）

- 2021年の新設住宅着工戸数は、**85.6万戸**（前年比105.0%）、このうち木造住宅は**50.2万戸**（同107.0%）となり、2020年からは増加したが、新型コロナウイルス感染症拡大前の2019年の水準は下回った。
- 2022年1～12月の新設住宅着工戸数は、**86.0万戸**（前年同期比100.4%）、このうち木造住宅は**47.8万戸**（同95.1%）。



構造別の着工戸数	2022年 1～12月	前年 同期	前年 同期比	前々年 同期	前々年 同期比
合計	859,529	856,484	100.4%	815,340	105.4%
■非木造	381,646	354,154	107.8%	346,045	110.3%
木造	477,883	502,330	95.1%	469,295	101.8%
■木造プレハブ	10,144	10,509	96.5%	10,822	93.7%
■2×4	91,233	96,018	95.0%	93,009	98.1%
■在来軸組	376,506	395,803	95.1%	365,464	103.0%
□木造率	55.6%	58.7%		57.6%	

（参考）利用関係別の着工戸数（ただし、「給与住宅」を除く。）



# 「定常範囲を逸脱する動き」について

(資料2)

## 分析結果

### (ア) 木材価格の前月比における逸脱の有無

(調査月 令和4年10月～令和5年1月)

- 【スギ中丸太】 ・ 10月に定常範囲を逸脱したが、11月以降は定常範囲に戻った。
- 【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

### (イ) 木材価格の前月比における下落(上昇)の継続(5ヶ月以上)

(調査月 令和4年10月～令和5年1月)

- 【スギ中丸太】 ・ 11月以降は5ヶ月以上連続した下落となっている。
- 【ヒノキ中丸太】 ・ 12月に上昇に転じており、5ヶ月未満。

### (ウ) 木材価格の前年度同月比における逸脱の有無

(調査月 令和4年10月～令和5年1月)

- 【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。
- 【ヒノキ中丸太】 ・ 12月以降定常範囲に戻った。

### (エ) 木材価格の2ヶ年平均価格比における逸脱の有無

(調査月 令和4年10月～令和5年1月)

- 【スギ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。
- 【ヒノキ中丸太】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

### (オ) 製材用素材の在庫率における逸脱の有無

(調査月 令和4年10月～令和5年1月)

- 【徳島県・愛媛県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。
- 【愛媛県・高知県】 ・ 定常範囲を逸脱した動きはなし。

四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会運営要領（平成25年7月30日付け25四資第19号）の2の（ア）から（オ）に係る確認

#### 〔判断基準・指標〕

- 過去10年間の月別データを基に、平均と標準偏差から95%の信頼区間を算出し、その区間を逸脱するか否かを確認
- 使用データは、農林水産省の「木材価格」・「製材統計」を使用

## ○ 丸太価格、在庫率の変動

### 1 スギ中丸太価格（徳島県・愛媛県）

	逸脱上限値		逸脱下限値		逸脱上限値		逸脱下限値		逸脱上限値		逸脱下限値					
	5.89%		-5.91%		21.79%		-20.28%		17.52%		-16.70%					
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)			
	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月
スギ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-6.05%	-5.81%	-1.51%	-1.18%	-4	-5	-6	-7	-9.29%	-13.78%	-11.52%	-10.70%	-3.80%	-9.82%	-10.52%	-10.43%

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

### 2 ヒノキ中丸太価格（愛媛県・高知県）

	逸脱上限値		逸脱下限値		逸脱上限値		逸脱下限値		逸脱上限値		逸脱下限値					
	9.15%		-9.50%		40.30%		-40.98%		30.09%		-32.48%					
	前月比 (%)				連続上昇・連続下落 (月)				前年同月比 (%)				2ヶ年平均価格比 (%)			
	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月	10月	11月	12月	1月
ヒノキ中丸太 (径級14~22cm) (長級3.65~4.00m)	-9.28%	-8.81%	1.57%	3.77%	-5	-6	1	2	-49.67%	-49.55%	-39.43%	-36.53%	-27.31%	-31.99%	-31.90%	-29.20%

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 木材価格データは農林水産省の「木材価格統計」を使用し、算出したものである。

### 3 製材用素材の在庫量

	素材の在庫率			
	10月	11月	12月	1月
製材用素材(徳島・愛媛)	1.20	1.31	1.41	1.37
製材用素材(愛媛・高知)	1.29	1.24	1.41	1.33

逸脱上限値	逸脱下限値
1.88	0.81
1.58	0.88

注1) 数値の赤字は定常範囲を逸脱しているものである。

注2) 在庫率のデータは農林水産省の「製材統計」を使用し、算出したものである。